

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

「ホントに減税？ホントに廃止？」

足立区立第十二中学校

三年 今井 桜子

「減税！税金廃止！」というワードをよく耳にする。なぜ、こんなにも税に対して不満を抱いているのだろう。その不満はどこから来ているのだろう。

私が思う理由は「税金が自分達の周りにどのように使われているか知らない・実感できない」ということだと思う。父親、母親、私、弟の四人世帯の我が家を例にして、誰がどんな税金を払い、どんなサービスを受けているのかを考えてみる。払っている税金は所得税や住民税、年金や自動車税、消費税、酒税などだ。ほとんどの税金は親が払っている。逆に私達が受けているサービスは、私と弟の教育費を始めとする教材費や給食費、医療費や児童手当などだ。私が通っている足立はばたき塾も足立区の税金が使われている。歳を取ったら年金や介護サービスの一部にも税金が使われる。子供のうちや老後は身の回りに税金が使われているものも多く、その存在を実感できありがたみも出てくる。たまに同級生が「消費税を下げろ！」などと冗談半分で言っているが、それは自分の生活にどれだけ税金が使われているかを知らないからだと思う。だが、親などの実際に働いてたくさんの税金を納めている世代は、税金でまかなわれているサービスが少ない。なので、税金の使い道が実感できず不満が募ってしまうのではないかと思う。国民の税負担が多いスウェーデンは国民が国の社会保障に満足し

ていて、国に守られているという実感があるから不満はそれほど多くないそうだ。

ではどうしたら不満をなくし、スウェーデンのように国民が満足して税金を払えるようになるのか。やはり一番は、働いている世代にも税金が使われていることを実感してもらえようなサービスをすることだと思う。私が悩んで出した答えのひとつは「全年齢医療費の自己負担額は一割」というものだ。しかしそうしたら、医療従事者の給料は税金から払われる事になり日本の予算はさらに厳しくなってしまう。また、フィンランドなどでは大学までの学費が無料だ。日本も取り入れてみては……と思ったが、その大学生たちが世に出てしつかり税金を納められるようになるまでが大変だ。作文を書く上で日本の予算の内訳などを調べていたが、「国債」というものがあるのに驚いた。日本の予算の内訳を大幅に変更するのは難しいということがわかった。

税金は国民と国が深く関わり合う、重要でデリケートなものだ。私が勉強できているのも税金からまかなわれているからなので、一概に税金は引き下げるべき！とも言えない。かと言って税金で苦しんでいる家庭も少なくないと思う。今回の作文を通して、まずはしつかり税金について学ぶことが大切だと思った。そこから国民や国との間で様々な議論を重ねて、日本をみんなが満足できるより良い国にしていけば良いのではないだろうか。